

シンポジウム

「文化財と四日市の未来」

四日市市文化財保存活用

地域計画でなにが変わるのか？



基調講演「自治体文化政策と文化財の果たす役割」

帝塚山大学名誉教授 中川幾郎さん

パネルディスカッション「文化財と四日市の未来」

コーディネーター 四日市大学副学長 鬼頭浩文さん

パネリスト

帝塚山大学名誉教授 中川幾郎さん

公立小松大学准教授 朝倉由希さん

富田鯨船保存会連合会会長 加藤正彦さん

日時：令和5年12月17日（日）午後1時30分から～4時

場所：四日市市総合会館8階 視聴覚室

申込：不要（当日受付：午後1時から）参加費：無料



詳しくはこちら

問合せ：四日市市シティプロモーション部文化課

TEL 059-354-8238

令和5年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）



シンポジウム「文化財と四日市の未来」

～四日市市文化財保存活用地域計画でなにが変わるのか？～

少し長いですが、ぜひ読んでみてください

「文化財」を取り巻く環境は大きく変わってきています。過疎化や少子高齢化等により、全国的な担い手不足による、文化財の消失や散逸等が緊急の課題になってきています。そのため、本市では、貴重な文化財を後世に伝え、市民の皆さんの関心を文化財に集め、その価値を知ってもらい、その上で文化財の保存と活用を図っていくため、「四日市市文化財保存活用地域計画」を作成しました。

文化財の保存と活用の取組みを推進することで、皆さまの本市に対する誇りと愛着がより深まるとともに、まちの魅力向上につながっていくと考えています。そして、この計画は行政だけでなく、文化財の所有者・管理者、地域の方々、民間業者、専門家など、皆さまのお力をいただき、総がかりで推進していきたいと考えています。

シンポジウムでは、地域計画の実施により、文化財で何ができるのか、まちに何をもたらすのか、今までと何が変わるのかについて、基調講演とパネルディスカッションを行います。

【コーディネーター、パネラー プロフィール】

●鬼頭 浩文 (きとう ひろふみ) さん

四日市大学副学長、同環境情報学部長・教授。四日市市文化財保存活用地域計画策定協議会会長。専門は経済学だが、環境政策や地域防災の研究にもウイングを広げてきた。2003年には音楽レーベル YUME を立ち上げ、プロデューサーとして KUNI-KEN の CD などをリリースした。また、2011年に学生とともに立ち上げた四日市東日本大震災支援の会の代表として 77 回の被災地でのボランティア活動をコーディネート、三重県や四日市市の地域防災に貢献し、2016年に防災功労者防災担当大臣表彰。



●中川 幾郎 (なかがわ いくお) さん

帝塚山大学名誉教授、博士（国際公共政策）。四日市市文化振興審議会会長。地方自治論、行政学、都市政策、公共文化政策を専攻。著書「地域自治のしくみと実践」、「分権時代の自治体文化政策」など多数。自治体学会顧問、日本政策学会顧問。現在、東大阪市、近江八幡市、伊賀市等全国の文化審議会会長等を務める。



●朝倉 由希 (あさくら ゆき) さん

公立小松大学国際文化交流学部准教授、同大学次世代考古学研究センター准教授兼任。四日市市文化財保存活用地域計画策定協議会委員、四日市市文化財保護審議会委員。文化芸術の多様な価値を豊かな社会づくりに活かすことを目指し、文化施策、アートマネジメントの研究に携わる。ほかに、福井市文化財保存活用地域計画策定委員会委員長などを務める。



●加藤 正彦 (かとう まさひこ) さん

富田鯨船保存会連合会長。全国山・鉾・屋台保存連合会理事。四日市大学総合政策学部「祭りとまちづくり」特別講師。富田鯨船神徳丸を所有する中島組で生まれ育ち、中島組鯨船山車神徳丸保存会会長を務めた。



【タイムスケジュール】(予定)

午後 1 時 0 0 分 受付

1 時 3 0 分 あいさつ

1 時 3 5 分 地域計画とは (15 分)

1 時 5 0 分 基調講演 (60 分)

2 時 5 0 分 休憩

3 時 0 0 分 パネルディスカッション (60 分)

4 時 0 0 分 終了